

『准学校心理士資格』(Aタイプ)取得のための大学・短期大学

における「学校心理学」関連科目(履修内容)について

『准学校心理士資格』(Aタイプ)取得のための大学・短期大学・専門学校における関連科目(履修内容)の基準として、具体的内容例について以下に示す。

具体的内容は、各項目の課題および関連するキーワードからなっている。なお、課題の表記については、各大学・短期大学・専門学校等のシラバスで工夫することができる。また、キーワードはすべて含まれる必要はない。ただし、半分以上、三分の二程度はシラバスに記載されていることが望ましい。

1. 教育心理学

(1) 教授・学習について

学校教育の基盤としての教授や学習に関する心理学、学習について様々な心理学的理論や知見、学校現場での課題に対する心理教育的援助について学ぶ。

* 学習、記憶、知識、学習の認知理論

(2) 記憶と理解

人の記憶や認知の仕組みや働きの特徴を踏まえ、一般的な教授学習指導上の留意点、効果的な学習指導のあり方、学習面の問題に対する援助計画などについて学ぶ。

* 情報処理モデル、認知モデル、ワーキングメモリ、知識獲得、理解の過程、問題解決

(3) 動機づけ

種々の代表的な動機づけ理論を踏まえ、学習が振るわない子どもの学習を動機づけるための方策などを学ぶ。

* 動機づけ(の種類)、自己効力感、学習性無力感、原因帰属

(4) 学習指導と授業

多様な学習指導に対する知識、効果的な授業、学習面での問題が生じないような援助などについて学ぶ。

* 学習面の把握、個人差に応じた指導、認知カウンセリング、学習の方法、自己診断力

(5) 学級集団とその組織化

教科指導等の場面において、学習者の集団として学級集団を効果的に組織化するための方策や学級集団の問題に対する援助について学ぶ。

*学級内の相互作用(教師と子ども、子ども同士のコミュニケーション)、学級集団の成立・発展過程、小集団、学級経営、集団づくり、協同学習

2. 発達心理学

※なるべく、乳幼児期、児童期、青年期の発達時期を含めた内容であること。

(1) 学校教育の基盤としての発達心理学について

発達の理論、発達の要因や発達段階の理解、発達査定ならびに発達の視点からの事例などを学ぶ。

*発達の原理、発達課題、発達研究法、発達査定、生涯発達、生活と発達

(2) 認知・思考の発達

人の認知・思考の発達とその理論、またはその問題について学ぶ。

*乳児の知覚機能、ピアジェの認知発達理論、情報処理発達理論、多重知能理論、流動性知能、結晶性知能、知的好奇心、心の理論、メタ認知、論理的思考

(3) 自己意識の発達

人の自己意識や自尊感情、有能感、アイデンティティ、適切な進路・職業選択について学ぶ。

*自己概念、反抗期、エリクソンの自我発達理論、自尊感情、有能感、アイデンティティ、青年の進路・職業選択、教師の職業的成長、親としての発達、自己実現

(4) 社会性の発達

母子関係、仲間関係、また基本的生活習慣や、反社会的・非社会的・向社会的行動などを理解し、社会的発達を学ぶ。

*基本的生活習慣、愛着理論と親子関係、仲間・友人関係の適応と問題、社会的スキル、道徳意識、ギャンググループ、向社会的行動

(5) 言語の発達

受容と表出コミュニケーション、語彙、文法、リテラシーの獲得などの言語発達を学ぶ。

*語彙の獲得、談話、文法の獲得、リテラシー、作文、コミュニケーション

3. 教育相談（幼児理解や保育相談支援等）

(1) 教育相談・保育相談の意義と内容

学校等における教育相談（学校教育相談）または保育相談の意義と特質，その実践的な展開例（教育・保育相談担当者や生徒指導，専門機関等とのコラボレーションなど）を学ぶ。また，保育者の専門性をいかして，子育て支援，トラブル解消策，保護者からの相談などについて学ぶ。

*教育相談の意義，教育相談担当の役割，教育相談体制，生徒理解，教育相談技法，スクールカウンセラーの運用，関係機関等との連携，不登校，いじめ，子育て支援，個人情報保護

(2) 生徒指導とは

生徒指導の定義，心理教育的援助サービス（一次・二次・三次的），学校内外での各種の援助資源やその実践的な展開例などを学ぶ。

*生徒指導の定義，総合的・実践的・個別的な生徒指導，予防・早期発見・介入，開発的生徒指導，予防的生徒指導，治療的生徒指導，生徒指導の組織，生徒指導主事，学級経営，協働的生徒指導体制，問題行動への対応，危機管理，チーム援助，サポートチーム，少年法

4. 特別支援教育

(1) 特別支援教育とは

特別支援教育の意義と制度，ノーマライゼーションの理念，最近の学校現場における課題解決に向けた具体的な教育実践例などを学ぶ。

*ノーマライゼーション，インクルーシブ教育，交流および共同学習，QOL，バリアフリー，特別支援教育，就学基準，特別支援学校，特別支援学級，通級による指導

(2) 障害の概念と特別な教育ニーズ

学校教育法や医学的な診断基準などに基づく障害の概念と，特別な教育ニーズなどを学ぶ。

*ICF，ICD-10，DSM-5，視覚障害，聴覚障害，肢体不自由，知的障害，言語障害，病弱・身体虚弱，自閉症スペクトラム障害，LD，ADHD，情緒障害，重度・重複障害（重症心身障害），発達障害，ダウン症，ディスレクシア，行為障害

(3) 実態把握と相談支援

学習，行動，生活，対人関係などの側面におけるアセスメントの重要性，相談支援や具体的な支援方法などを学ぶ。

* 特別支援教育コーディネーター，就学相談，特別支援学校のセンター的機能，障害理解，スクリーニング，アセスメント，医療的ケア，二次障害，学習の困難さ，適応行動，行動上の問題，感覚過敏

(4) 個別の指導計画と個別の教育支援計画

「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の理解，学校と関係機関との連携や移行支援などを学ぶ。

* 個別の指導計画，個別の教育支援計画，個別の支援計画，学習支援，行動支援，対人関係の支援，生活支援，運動機能の支援，長期目標，短期目標，保護者との連携，指導手続き，指導の場，個別指導，集団内配慮

(5) 校内委員会と支援体制

学校や教育委員会などにおける特別支援教育を推進するための支援体制や実際の支援，最近の現状や地域性などを学ぶ。

* 校内委員会，専門家チーム，巡回相談，専門機関との連携，特別支援教育支援員

『准学校心理士資格』(Bタイプ)取得のための大学における

「学校心理学」関連科目(履修内容)について

『准学校心理士資格』(Bタイプ)取得は、文部科学省及び厚生労働省が公認心理士資格カリキュラム対応と確認*されている大学に在籍して、以下の科目をすべて履修する。授業科目は、文部科学省及び厚生労働省が公認心理士資格カリキュラム対応科目と確認*されていることが必要である。

*文部科学省及び厚生労働省による公認心理士資格カリキュラム対応と確認している旨の証明のコピーを提出する。

1. 教育・学校心理学
2. 発達心理学
3. 障害者・障害児心理学
4. 福祉心理学
5. 心理的アセスメント
6. 心理学的支援法